



令和2年12月発行
鶴ヶ島市立中央図書館

1 『54字の物語 ZOO』
氏田雄介／編著 今泉忠明／監修 武田侑大／絵 PHP 研究所
SNSでも話題の、わずか54文字の超短編小説集シリーズ。今回のテーマは「ZOO」ということで、動物学者の今泉忠明先生監修による、動物トリビア付き。たった54文字で「物語」を成立させる為には、アイデアはもちろん、言葉選びの知識やセンスも必須。巻末には自分で54字の物語を作る為のワークシートもついているので、キミもぜひオリジナル短編に挑戦してみてください！

2 『世界一おもしろい国旗の本』
ロバート・G.フレッソン／絵・文 小林玲子／訳 河出書房新社
宗教、歴史、民族、国民性…。世界の国旗には、それぞれの国の長い歴史が刻まれています。オールカラーで美しく、読み物としても楽しめる本です。

3 『ぼくのまつり縫い』
神戸遙真／作 井田千秋／絵 偕成社
サッカー部を休部中に、たまたま被服部を手伝うことになった優人。隠していた手芸好きを見破られ、ドレス作りをサポートすることになるが…。かくれ手芸男子が本当に好きなことに向きあうまでの物語。

4 『日本語をつかまえろ!』
飯間浩明／文 金井真紀／絵 毎日新聞出版
親しみを込めて犬を呼ぶ時、なぜ日本人は「ワンちゃん」と言うのか？等、身近な日本語に隠された秘密を次々に教えてくれます。読後はあなたも日本語博士？

5 『戦場の秘密図書館』
マイク・トムソン／著 小国綾子／編訳 文溪堂
シリア内戦下の町ダラヤ。政府軍により完全封鎖され、日々空爆される絶望的な状況下で、希望を繋いだのは本だった…。地下に作られた秘密図書館を愛した人々のノンフィクション。

6 『窓』
小手鞠い／作 小学館
8歳で引き離され、知らぬ間に亡くなっていた母から届いた一冊の美しいノート。それは窓香に向けて書かれた、母からの「手紙」だった…。母の生き方を知ることによって大きく成長する少女の物語。

7 『無限の中心で』
まはら三桃／著 講談社
主人公とわは、「マイナス×マイナスはどうしてプラスになるのかもわからない」数学が苦手な女の子。とあるきっかけで、変人だらけの数学研究部の面々と、「木曜日のミステリー」に迫ることになるが…。



8 『震える叫び』
R.L.スタイン／監修、レイ・ダニエル／著、ベス・ファンタスキー／著、ダニエル・パーマー／著、アリソン・マクマーハン／著、ジョセフ・S.ウォーカー／著、クリス・グラベンスティン／著、ピーター・ルランジス／著、三辺律子／監訳 理論社
海外の作家陣が小中学生に贈る恐怖短編小説集。日本の怪談とは違った、外国ならではの切り口で語られる怖い話の数々。あなたにぴったりのホラーがきっと見つかるはず！

9 『囚われのアマル』
アイシャ・サイド／作 相良倫子／訳 さ・え・ら書房
現代のパキスタンで暮らす女の子・アマルの日常は、「どうにもできない不条理」でいっぱい。夢を奪われ、偏見や差別を受け続けるアマル。それでも彼女は諦めなかった…。

10 『旅が好きだ!』
河出書房新社／編 角田光代／ほか著 河出書房新社
角田光代、はあちゅう、益田ミリなど、「旅が好き」な21人が「旅」について語ります。旅先の失敗談のマンガもあれば、歴史上の旅もあり…。それぞれの個性的なアプローチも魅力。

11 『兄の名は、ジェシカ』
ジョン・ボイン／著 原田勝／訳 あすなろ書房
サム之母は次の首相を狙う大臣で、父はその秘書。忙しい両親に代わり面倒をみてくれたジェイソンは、サムの自慢の兄だ。そんなジェイソンの様子が最近変わってきて…。

12 『14歳からの読解力教室』
犬塚美輪／著 笠間書院
なぜ「読解力」が「生きる力」につながるの?? 「まんが」と「文章」それぞれの良い点、悪い点や、「暗記」と「理解」の違いなど、最近の研究結果をふまえてわかりやすく解説。「知識の土台」を身につけたい人に。

13 『月のケーキ』
ジョン・エイキン／著 三辺律子／訳 東京創元社
月夜に魔法のケーキを作る『月のケーキ』等、さみしくて美しい夜を連想させる不思議なお話がつまった短編集です。変わったお話が読みたい人へおすすめ。

14 『紙の心』
エリーザ・プリチェッリ・グエッラ／作 長野徹／訳 岩波書店
図書館の本に手紙を挟んで秘密の会話を楽しむ少年と少女。しかしある時、自分達の身の上に関する重大な秘密を知ってしまい、とんでもない事件に巻き込まれてゆく…。





おすすめ本
中学生

15 『トムソーヤーを育てる水族館』
 安部義孝／著 新日本出版社
 水族館ってどこから魚を集めているの？ どうやって運んでくるの？ 等、水族館の丸秘エピソードの数々を少年の心を持ち続ける筆者が大公開！ 読んだら水族館へ行きたくなること間違いなし！

16 『エミリーとはてしない国』
 ケイト・ソーンダズ／作、田中奈津子／訳 北見葉胡／絵 ポプラ社
 夜になると、亡くなった姉の部屋から声がする…。エミリーは、そっとのぞいてみる事にしました。愛する人を失った悲しみを、おもちゃたちとの交流と想像力で乗り越えていく物語。

17 『魔女と花火と100万円』
 望月雪絵／作 講談社
 長根中学の文化祭が中止になることが決まりなんだかもやもやしていた中二の杏は、生徒会役員で美術部の賢人と出会う。賢人は文化祭を復活させるため、仲間たちと秘密の作戦をすすめていた。杏も強引にその作戦に巻き込まれて…。

18 『母さんは料理がへたすぎる』
 白石睦月／著 ポプラ社
 山田家の父親は3年前に事故で他界。会社勤めの母親、幼稚園に通う三姉妹たちの面倒を見る15歳の龍一朗。それぞれの悩みとぶつかりながら家族の成長を描く連作短編集。幸せな気持ちになれる一冊です。

19 『はてしない物語』
 ミヒャエル・エンデ／作 上田真而子／訳 佐藤真理子／訳 岩波書店
 バスチアンは、ふしぎな赤銅色の本と出会います。物語の世界で「英雄」ともてはやされる彼は…。現実の世界と、物語の世界が交錯するこの本の世界に、あなたも引き込まれることでしょう。

20 『動物の看護師さん』
 保田明恵／著 大月書店
 みなさんはお家でペットを飼っていますか？
 ペットをいくら大事に思っても、全てが通じ合うわけではありませんよね。
 動物の声を聴いて助けてくれる看護師さんのお話です。

R.02.12 発行
第43号

